

第 4 期仁淀川地域アクションプランの進捗状況確認資料
(令和 3 年度の実施状況と令和 4 年度の展開)

仁 淀 川 地 域 本 部

令和 4 年 7 月 7 日 (木)

1 地域アクションプランの令和3年度の実施状況と令和4年度の展開（総括）

(1) 総評

令和3年度は、全34項目のアクションプランについて、実行支援チームを編成し、事業推進に向けた協議と進捗管理を行うとともに、各種支援制度の活用などにより、それぞれの目標の達成に向けて取り組みを進めてきた。

こうした中、国内での新型コロナウイルス感染症の感染状況は一進一退を繰り返しており、仁淀川地域においても、観光産業の落ち込みをはじめ、商談会の自粛等による経済活動の停滞など、依然としてマイナスの影響が続いている。

管内市町村においては、引き続き、事業の継続に向けた独自の支援策を実施するなど、地域経済の維持に向けた取り組みが行われている。

新型コロナウイルス感染症の収束時期が見通せない状況にあるが、「新しい生活様式」に対応したイベントの実施や商談会への出展、受入態勢の整備など、事業主体等による取り組みが行われている。

また、産業分野別にみると、次のような状況となっている。

農業分野では、トマトの生産拡大において栽培講習会や現地検討会での栽培技術指導、個別巡回による栽培指導の徹底を図ることによって、トマトの出荷量、販売実績額の増加に向けて取り組んでいる。さらに、法人への新規雇用や、JA高知県が運営する無料職業紹介所等により、トマト生産に係る雇用人数は増加しており、産地の確立だけではなく、移住促進や雇用拡大など地域の活性化に向けた取り組みとも連携しながら進めている。

林業分野では、仁淀川町において日報管理システムを導入し、現場における生産管理の試験運用が始まっている。また、平成31年4月から施行された森林経営管理法に基づく、新たな森林経営管理制度の円滑な運用に向けた協議を行うとともに、より一層の原木の増産と安定確保を目指して管内市町村及び森林組合との協議を進めるなど、地域の関係者とともに林業・木材産業の振興に取り組んでいる。

水産業分野では、(株)土佐マリンベースが水産加工施設等整備事業費補助金を活用し新たに水産加工施設の整備を実施しており、ブリやマダイなどの養殖魚の産地加工体制を構築することで、養殖漁業等の振興、地元雇用の創出などの取り組みを進めている。

商工業分野では、仁淀川町を拠点にMUKAI CRAFT BREWING(株)が行う地元食材を副原料（茶葉、生姜など）としたクラフトビールの製造や販売を通じて、地域ブランドとしての確立に向けて取り組んでいる。また、佐川町においては、さらなる交流人口の拡大と地域経済の活性化に向け、R5年春のオープンを目指した道の駅の整備に向けた取り組みを進めている。

観光分野では、アウトドアブームや、コロナ禍においてアウトドアが注目される中、越知町が整備したアウトドアの拠点施設である「スノーピークおち仁淀川キャンプフィールド」に、県内外から多くの方が訪れているが、今後のさらなる利用拡大に向け、企業研修などキャンプ以外での利活用も訴求する取り組みを進めている。また、本県が舞台モデルとなった映画「竜とそばかすの姫」の公開に合わせ、SNSによる情報発信や各種キャンペーンの展開など、官民一体となって地域への誘客に向けて取り組んだ。また、令和5年春からNHKの連続テレビ小説「らんまん」の放送が予定されているため、これを仁淀川流域の観光振興に最大限活かすよう、市町村や関係機関と連携しながら取り組みを進める。

本年度も、昨年度と同様、全34項目の地域アクションプランで構成されており、引き続き、アクションプランごとに編成されている実行支援チームにおいて、市町村や関係機関等と連携のもと各種支援制度を活用しながら、それぞれの目標の達成に向けて取り組んでいく。

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※進捗状況の基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
—	達成度の判断が困難なもの

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】		
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	R元実績	R2実績	R3到達目標	4年後(R5)目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4到達目標	R4年度計画
									R3到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析		
農業	3 日高村まるごとブランド化 (日高村) 【実施主体】 ◎・日高村 ◎・JA高知県(仁淀川地区) ・JA高知県日高支所ハウス園芸部会 ・(株)コスモスアグリサポート ・(株)イチネン高知日高村農園 ・日高村商工会 ・(特非)日高わのわ会 ・農事組合法人霧山茶業組合 ・(株)村の駅ひだか ※地域産業クラスター関連(日高村トマト産地拡大クラスタープロジェクト)	農産物等の販売額5.4億円(H30)	6.56億円	7.51億円	5.64億円	5.86億円	1 経営管理能力及び生産力の向上 ・栽培講習会や現地検討会での栽培技術指導 ・作業進捗状況及び労務管理状況確認 ・IoT技術を活用した生産技術向上に向けた取組 ・出荷実績調査 2 農業経営体の確保・育成 ・就農者受け入れ体制の検討、進捗状況の確認 ・経営実績による経営改善目標の作成 ・個別カウンセリングによる経営目標設定 ・経営目標到達状況確認 3 販売力の向上 ・県版GAPの取り組み状況の点検 ・高糖度トマトに係る販売会議の開催	1 経営管理能力及び生産力の向上 ・栽培講習会及び現地での検討会：12回 ・個別巡回による栽培指導：154回 ・就農希望者との面談：4回 ・法人雇用実態調査：4回 ・JA高知県が運営する無料職業紹介所の活用に関する協議：4回 ・IoT技術の活用に向けた栽培や出荷に関するデータの集約 2 農業経営体の確保・育成 ・経営実態調査：28回 ・農家への経営カウンセリング：26回 ・経営目標調査：28回 3 販売力の向上 ・県版GAP点検：6回 ・夏秋トマトの販売会議：1回	7.02億円 ・R3目標達成率：124% ・対前年比：93%	S	(成果) ・随時栽培講習会や個別巡回指導を行うことにより、生産力の向上につながった ・環境測定装置等の活用により、難防除病害である灰色かび病の発生が少なく、安定した生産につながっている。 ・JA無料職業紹介所を介したマッチングが10件あった。 (課題) ・各農家の栽培技術・経営力の向上 ・農業労働力の確保 ・IoT技術を活用した栽培指導の実施 (今後の方向性) ・各農家の課題に応じた栽培指導の実施 ・経営実態調査の実施時期の変更 ・JA無料職業紹介所の活用促進	5.75億円	1 経営管理能力及び生産力の向上 ・要望に応じて講習会や個別指導を行い、栽培技術の向上を図る ・栽培講習会や現地検討会での栽培技術指導 ・作業進捗状況及び労務管理状況確認 ・IoT技術を活用した生産技術向上に向けた取組 ・出荷実績調査 2 農業経営体の確保・育成 ・JA高知県が運営する無料職業紹介所の活用 ・研修期間に使用する作業チェックリストの見直し ・就農支援体制強化に向けた協議会開催の支援 ・就農者受け入れ体制の検討、進捗状況の確認 ・経営実績による経営改善目標の作成 ・個別カウンセリングによる経営目標設定 ・経営目標到達状況確認 3 販売力の向上 ・市場関係者との定期的な協議及び情報の共有 ・JA、園芸連等との予約相対期間等の再検討 ・県版GAPの取り組み状況の点検 ・高糖度トマトに係る販売会議の開催
	「オムライス街道」によるオムライス販売数55,475食(R元見込み)	56,825食	46,965食	58,000食	60,000食	1 「日高まるごとイタリアプロジェクト」の推進 ・オムライス街道スタンプラリー第8弾の実施	1 「日高まるごとイタリアプロジェクト」の推進 ・オムライス街道スタンプラリー第8弾の実施(6/12～R4/3/27) ・オムライス街道スタンプラリー第8弾キックオフイベント(7/4)	48,681食 ・R3目標達成率：84% ・対前年比：104%	C	(成果) ・新型コロナの影響があったものの、前年と同程度の食数を維持している。 (課題) ・新メニューの開発等、飽きさせないための仕掛けづくり (今後の方向性) ・R5年度のオムライス街道10周年を見据えた事業展開	59,000食	1 「日高まるごとイタリアプロジェクト」の推進 ・オムライス街道スタンプラリー第9弾の実施、新メニューの開発 ・R5年度のオムライス街道10周年を見据えた事業展開	
	商品・加工品開発件数23件(H28～H30累計)	5件	6件	6件	25件(累計)	1 「日高まるごとイタリアプロジェクト」の推進 ・オムライス街道事業参加店舗による新メニューの開発 ・産業振興アドバイザー制度(課題一貫支援型)を活用した(特非)日高わのわ会の経営支援に関する協議 2 日高村アグリネットワークの連携強化 ・日高村アグリネットワーク会議の開催	1 「日高まるごとイタリアプロジェクト」の推進 ・オムライス街道事業参加店舗による新メニューの開発：4件 ・新たな加工品の販売：1件 ・産業振興アドバイザー制度(課題一貫支援型)を活用した(特非)日高わのわ会の経営支援に関する協議：9回 2 日高村アグリネットワークの連携強化 ・日高村アグリネットワーク会議の開催(12/17)	5件 ・R3目標達成率：83% ・対前年比：83%	C	(成果) ・オムライス街道参加店舗の新メニューの開発を中心に、目標値に近い数の商品・加工品の開発があった。 (課題) ・日高わのわ会のトマト加工施設の衛生管理の向上や、作業場が手狭で効率が高いことが課題 (今後の方向性) ・日高わのわ会による新たなトマト加工施設整備の検討	6件	1 「日高まるごとイタリアプロジェクト」の推進 ・オムライス街道事業参加店舗による新メニューの開発 ・産業振興アドバイザー制度(課題一貫支援型)を活用した(特非)日高わのわ会の経営支援に関する協議 ・産業振興アドバイザー制度(課題解決型)を活用した新たなトマト加工施設整備に関する協議(R4協議・計画作成・申請、R5整備予定) ・「村の駅ひだか」直販市の機能強化(駐車場拡大による集客力向上(受入体制の強化)) 2 日高村アグリネットワークの連携強化 ・日高村アグリネットワーク会議の開催 ・県外への特産品等販促活動の実施	

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】		
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	R元実績	R2実績	R3到達目標	4年後(R5)目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4到達目標	R4年度計画
									R3到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析		
	村外からの移住者数12組(H28～H30累計)		5組	9組	5組	20組(累計)	1 「日高まるごとイタリアプロジェクト」の推進 ・移住相談への対応 ・空き家情報の集約、空き家の改修 ・移住フェアへの参加	1 「日高まるごとイタリアプロジェクト」の推進 ・移住相談数：延べ113件 ・移住相談への対応 ・空き家情報の集約、空き家の改修 ・移住フェアへの参加	10組 ・R3目標達成率：200% ・対前年比：111%	S	(成果) ・県外を中心に、目標を超える人数の方が日高村に移住した。 (課題) ・移住希望者の住居の確保 ・コロナ禍におけるPR活動 (今後の方向性) ・引き続きの空き家の改修	5組	1 「日高まるごとイタリアプロジェクト」の推進 ・移住相談への対応 ・空き家情報の集約、空き家の改修 ・移住フェアへの参加
	新規就農者数19名(H28～H30累計)		2名	3名	1名	4名(累計)	1 農業経営体の確保・育成 ・産地提案書の見直し ・就農相談への対応 ・就農者受け入れ体制の検討、進捗状況の確認 ・新・農業人フェアへの参加	1 農業経営体の確保・育成 ・産地提案書の見直し：8回 ・就農希望者との面談：4回 ・就農相談への対応：随時	2名 ・R3目標達成率：200% ・対前年比：67%	S	(成果) ・就農候補者1名以下のスケジュールで研修を実施した。 ■R3.12月～R4.2月：農業担い手育成センターでの研修 ■R3.3月～：コスモスアグリサポートでの研修 ・R4.4月から、新たに1名の就農候補者が農業担い手育成センターで研修を受ける予定。 (課題) ・担い手の確保・育成 ・新規就農者の受入体制の充実 (今後の方向性) ・研修生の栽培技術習得に向けた支援の強化	1名	1 農業経営体の確保・育成 ・産地提案書の見直し ・就農相談への対応 ・就農者受け入れ体制の検討、進捗状況の確認 ・新・農業人フェアへの参加 ・研修生の栽培技術習得に向けた支援
林業	7 仁淀川流域における林業・木材産業の振興(仁淀川地域全域)	(1)原木生産量9.8万m3(H30)	9.7万m3	9.5万m3	11.0万m3	12.0万m3	1 施業地確保や集約化による原木生産推進 ・【四半期毎】素材生産量調査 ・中央西地区路網整備促進協議会 ・【第二四半期】いの町路網整備ワーキンググループ ・【第二四半期】仁淀川町路網整備ワーキンググループ ・森林経営計画・森の工場樹立事業体への作成指導 ・森林経営管理制度林業事務所ワーキング ・森林経営管理制度市町村研修 2 事業体の育成 ・【四半期毎】管内森林組合協議 ・【通年】森林組合・林業事業体・自伐林家等の経営・技術及び労働安全指導	1 施業地確保や集約化による原木生産推進 ・森林経営計画及び森の工場計画作成指導(6市町村、10事業体) ・森の工場及び原木増産個別ヒアリング(6/9：12事業体、10/7：15事業体) ・森林経営計画の新規認定(7事業体、514.72ha) ・新規森の工場の計画書作成(7事業体、608.40ha) ・皆伐作業道整備の交付決定：4事業体、作業道開設4,686m、架線770m ・現地調査支援システムの貸出(タブレット：3市町村3台・地形データHDD：6市町村) ・森林管理システム支援チーム会(4/16) ・森林管理システム市町村個別支援(25回) ・森林管理システム林業事務所ワーキング(6/21：第1回書面、11/26：第2回、3/18：第3回) ・森林管理システム市町村向け研修会(2回) ・中央西地区増産・再造林推進協議会(2回) ・中央西地区路網整備促進会議(1回) ・スマート林業に関する情報提供(11回)	10.3万m3 ・R3目標達成率：94% ・対前年比：108%	B	(成果) ・森林経営管理制度、森林経営計画及び森の工場の取組支援により施業地の確保が着実に進んでいる。 ・高性能林業機械の導入により生産性の向上につながっている。 (課題) ・新型コロナウイルス感染症による社会構造の変化への対応(国産材への代替、原木価格の高騰) (今後の方向性) ・引き続き、施業地の集約化を行い、生産性の向上を図る。	11.5万m3	1 施業地確保や集約化による原木生産推進 ・素材生産量調査による生産状況の情報収集 ・森林経営計画・森の工場計画の作成及び実行指導 ・皆伐作業道等の整備 ・中央西地区増産・再造林推進協議会の開催 ・森林経営管理制度林業事務所ワーキングの開催 ・地形データ、森林資源データの市町村配付 ・中央西地区路網整備促進会議の開催 ・森林クラウドの部分運用開始 2 事業体の育成 ・仁淀川町林業研修生受け入れ ・仁淀川町における苗木生産施設整備の支援 ・事業戦略の実践へのフォローアップ ・スマート林業に関する情報提供 ・仁淀川町林業研修制度体験ツアーの実施及び支援
		(2)仁淀川林産協同組合集材センター集荷量3.5万m3(H30)	3.8万m3	3.7万m3	4.6万m3	5.8万m3	3 需給調整体制の整備 ・【通年】高吾北地域林業成長産業化地域創出モデル事業進捗管理等 ・仁淀川町林業総合戦略策定委員会 ・【第二四半期】仁淀川町森林管理推進協議会 ・【第二四半期】高吾北地域原木安定供給協議会 4 大型製材工場の生産・経営力の強化 ・【四半期毎】大型製材工場の進捗管理及び指導、情報提供等	2 事業体の育成 ・事業戦略策定支援(新規2事業体) ・(再掲)・森の工場及び原木増産個別ヒアリング(6/9：12事業体、10/7：15事業体) ・高性能林業機械導入の交付決定(2事業体、2台) ・自伐林家等林業機械レンタルの交付決定(11名、23台) ・仁淀川町林業研修生の受け入れ(7名) 3 需給調整体制の整備 ・仁淀川町林業総合戦略策定支援(8回) ・仁淀川町SCM意見交換会等(6回) ・林業振興センター(仮称)の起工(10/20) ・仁淀川町森林管理推進協議会(日報管理・原木流通システムの改良)(1回) ・日報管理システムの配付による現場管理を開始(端末：10事業体・11台、タブレット：6事業体・13台) ・施業提案システムの改良支援(2回) 4 大型製材工場の生産・経営力の強化 ・進捗管理及び情報収集(5回)	3.6万m3 ・R3目標達成率：78% ・対前年比：97%	C	(成果) ・日報管理システムの導入などによるスマート林業化が実現につながっている。 ・仁淀川町林業振興センター(仮称)の起工までに至った。 ・仁淀川町林業総合戦略の策定に至った。 (課題) ・仁淀川町における原木流通システムの構築 (今後の方向性) ・仁淀川町林業振興センター(仮称)の完成延期(R4.3月→R4.6月) ※設計変更のため	5.2万m3	3 需給調整体制の整備 ・高性能林業機械(プロセッサ)の実証データ取得支援 ・仁淀川町日報管理・原木流通システムの構築支援 ・仁淀川町林業振興センターの落成、運営及び支援 4 大型製材工場の生産・経営力の強化 ・原木調達、受注、稼働状況の情報収集

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】		
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	R元実績	R2実績	R3到達目標	4年後(R5)目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4到達目標	R4年度計画
									R3到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析		
林業	9 佐川町における自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化クラスタープロジェクト (佐川町) 【実施主体】 ◎・佐川町 ◎・自伐型林業やものづくりに取り組む個人・団体 ※地域産業クラスター関連 (佐川町における自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化)	林業関連 新規就業者数 17人(H28～R元累計)	17人 (H28～R元累計)	5人	10人 (R2～R3累計)	20人 (R2～R5累計)	1 自伐型林業の確立 ・地域おこし協力隊の採用 ・町民向け研修・体験会の実施 ・地域おこし協力隊向けスキルアップ研修の実施	1 自伐型林業の確立 ・地域おこし協力隊の採用 (4人) ・町民向け研修・体験会の実施 チェンソー取扱い研修 (8/7～8/9) 間伐体験 (12/11～12/12) ・地域おこし協力隊向けスキルアップ研修の実施 (7回)	R3: 4人 (R2～R3累計: 9人) ・R2～R3目標達成率: 90% ・対前年比: 80% ※採用予定者の辞退に伴い前年より減少	B	(成果) ・毎年、継続した地域おこし協力隊の採用(R2: 5人、R3:4人)により、自伐型林業の担い手の増加につながっている。 ・地域おこし協力隊の卒業後も、町内への定着につながっている (R3.12.1現在: 14名、定着率67%)。 (課題) ・自伐型林業の担い手確保 (今後の方向性) ・地域おこし協力隊の積極的な採用の継続 ・町民向け研修・体験会や、地域おこし協力隊向けスキルアップ研修の継続実施	15人	1 自伐型林業の確立 ・地域おこし協力隊の積極的な採用 ・町民向け研修・体験会の実施 ・地域おこし協力隊向けスキルアップ研修の実施
	山林の集約化面積 225ha (H28～H30累計)	491ha (H28～R元累計)	113ha	200ha (R2～R3累計)	400ha (R2～R5累計)	1 自伐型林業の確立 ・山林の集約化 (管理契約締結) の推進 2 低質材の活用促進 ・低質材や広葉樹の利活用に向けた検討	1 自伐型林業の確立 ・山林所有者へのアンケート結果を踏まえ、所有者との山林の管理契約を締結し、山林の円滑な集約化を推進 2 低質材の活用促進 ・低質材や広葉樹の利活用に向けた検討	R3: 73ha (R2～R3累計: 186ha) ・R2～R3目標達成率: 93% ・対前年比: 65% ※山林面積の集約化に向け、アンケートを実施する地区ごとの山林面積が異なるため	B	(成果) ・山林の管理面積の集約化推進により、山林の荒廃回避や有効活用、また地域おこし協力隊の卒業後の定着にもつながっている。 (課題) ・継続的・安定的な自伐型林業の施業環境づくり (今後の方向性) ・山林所有者へアンケートを実施し、山林の集約化を継続的な推進 ・低質材や広葉樹の利活用に向けた継続検討	100ha (R2～R4累計: 300ha)	1 自伐型林業の確立 ・山林所有者へのアンケート実施 ・アンケート結果を踏まえた管理契約の締結 2 低質材の活用促進 ・低質材や広葉樹の利活用に向けた検討	

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】		
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	R元実績	R2実績	R3到達目標	4年後(R5)目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4到達目標	R4年度計画
									R3到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析		
水産業	12 土佐市における養殖魚加工体制の構築による加工品の販売拡大と地域の振興（土佐市） 【実施主体】 ◎・(株)土佐マリンベース ・和光商事(株)	売上高 － (H30)	－	－	－	3億1,800万円	1 産地加工体制の構築 ・加工施設の整備 2 県外での販路拡大 ・商談会への出展	1 産地加工体制の構築 ・加工施設整備 ・造成工事完了(7月) ・起工式(7/27) ・躯体工事着手(8/9) ・輸出拡大施設整備等事業費補助金の割当内示(7/29) ・輸出拡大施設整備等事業費補助金の交付申請、指令前着手届(8/19) ・輸出拡大施設整備等事業費補助金の交付決定(9/14) ・加工施設完成(3/15) ・高知県水産加工施設等整備事業費補助金の概算払い(112,623千円) ・12名を雇用（正社員9名、パート3名）（3/31時点） 2 県外での販路拡大 ・沖縄大交易会出展（11/25～26）	－	－	(成果) ・加工施設の完成 (課題) ・流通形態や生活様式の変化に対応した新商品の開発 (今後の方向性) ・販路の開拓	2.65億円	1 産地加工体制の構築 ・地域事業者との連携 2 商品開発 ・流通形態や生活様式の変化に対応した新商品の開発、地元産品を活用した新商品の開発 3 県外での販路拡大 ・輸出に向けたHACCPの取得
商工業	15 いの町中心市街地の活性化 (いの町) 【実施主体】 ◎・いの町 ◎・いの町商工会 ※地域産業クラスター関連（いの町生姜生産・販売拡大クラスタープロジェクト）	中心市街地での事業所の新規開業 15事業所 (H28～R元累計)	8事業所	3事業所	2事業所	8事業所 (R2～R5累計)	1 中心市街地活性化計画実行に向けての取り組み ・アクションプランの実行 2 地域産業クラスターの取り組み（いの町生姜生産・販売拡大クラスタープロジェクト） ・新商品開発協議 ・芽生姜のしそ酢漬け開発 3 イベント等開催によるにぎわいの創出 ・商店街でのイベント開催 ・町内での映画「竜とそばかすの姫」キャンペーン実施 4 町内への開業の誘致 ・空き店舗家賃補助事業 ・空き店舗等活用事業費補助制度 ・支援制度の拡充	1 中心市街地活性化計画実行に向けての取り組み ・商店街の新規事業者紹介リーフレット 町広報誌への折り込み（6回）、掲載事業者の座談会（3月） ・中心市街地空き店舗等活用事業費補助制度の策定（9月） ・商工会前町有地の整備 2 地域産業クラスターの取り組み（いの町生姜生産・販売拡大クラスタープロジェクト） ・新商品（芽生姜のしそ酢漬け）の開発に向けた協議 ・試作及び味の調整、菌検査 3 イベント等開催によるにぎわいの創出 ・いの町まちのこいのぼりスタンプラリー（4/29～5/5） →景品交換数：86個 ・docomo×いの町観光協会 映画「竜とそばかすの姫」プレゼントキャンペーン→参加者数：約600人 4 町内への開業の誘致 ・空き店舗家賃補助事業（6事業所） ・商店街の店舗一体型住宅への調査・店舗改修補助事業	5事業所（R3年度開業） ・R3目標達成率：250% ・対前年比：166%	S	(成果) ・目標を大きく上回る開業があった ・空き店舗家賃補助事業が功を奏している (課題) ・コロナ禍の外出自粛による商店街の人通り、売上げの減少 (今後の方向性) ・既存事業者の事業継続への対応	2事業所	1 中心市街地活性化計画実行に向けての取り組み ・アクションプランの実行 2 地域産業クラスターの取り組み（いの町生姜生産・販売拡大クラスタープロジェクト） ・芽生姜のしそ酢漬け販売に向けた調整 ・生姜焼き街道のSNS発信強化 3 イベント等開催によるにぎわいの創出 ・商店街でのイベント開催 4 町内への開業の誘致 ・空き店舗家賃補助事業 ・空き店舗等活用事業費補助制度 ・支援制度の見直し
商工業	17 仁淀川町で製造するクラフトビールの展開による交流人口の拡大と地域の活性化 (仁淀川町) 【実施主体】 ◎・MUKAI CRAFT BREWING(株) ・仁淀川町	クラフトビール販売額	－	370万円	1,150万円	1,300万円	1 製造及び販売体制の強化 ・受入体制の強化（屋外オーニング、案内看板の設置など） ・地域おこし協力隊との連携（人員体制の強化） 2 積極的な販売促進活動 ・町内外のイベントやキャンプ場などへの出店販売 ・県版HACCPのR3認証取得に向けた準備 3 ブランド化戦略の実践 ・関係機関との定例会を開催し、情報共有を図るとともに販売戦略などを協議 ・販促イベントの実施	1 製造及び販売体制の強化 ・BBQスペースの設置と備品レンタルの開始（5月～） ・屋外オーニングの設置（7月） ・案内看板の設置（11月） ・インターネット販売（1月～） 2 積極的な販売促進活動 ・自動車による屋台の営業許可の取得（4月） ・日高酒蔵ホールでのイベント販売（4月） ・ふるさと納税の取扱商品展開（5月～） ・日高村協力隊と連携した、醸造所＆タップルーム前での合同イベントの実施（8月） ・高知市、仁淀川町でのイベント販売（10月～1月、3月） 3 ブランド化戦略の実践 ・スノーピーク、サニーマートとの販促イベント協議（6月） ・おち仁淀川キャンプフィールドでの出張販売（7月、10月） ・仁淀川町産ホップによるクラフトビールの醸造、販売（9月～11月） ・地場産業対象の「産業振興計画賞」を受賞（12月） ・バラエティバック（6種類）のインターネット販売（1月～）	1,343万円 ・R3目標達成率：117% ・対前年比：363%	S	(成果) ・BBQスペースや屋外オーニングの設置により利用者の誘客及び販売促進につながっている。 ・案内看板の設置や出店販売、インターネット販売等により「ブランド」力の向上及び新規顧客の獲得につながっている。 (課題) ・円滑な稼働と安定生産に向けた生産体制の構築と人員体制の強化 ・安全性の確保や事業化の強化に向けた品質管理と衛生管理の確立 ・ブランド力向上に向けたプロモーション活動や新商品開発 (今後の方向性) ・成分の数値化（県工業技術センターの分析）による製造技術の向上	1,220万円	1 製造及び販売体制の強化 ・地域おこし協力隊との連携（人員体制の強化） ・県工業技術センターへの成分分析と官能評価の依頼 2 積極的な販売促進活動 ・町内外のイベントやキャンプ場などへの出店販売 ・県版HACCP新第2ステージの認証取得に向けた準備 3 ブランド化戦略の実践 ・関係機関との定例会を開催し、情報共有を図るとともに販売戦略などを協議 ・クラフトビールの新商品開発

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】		
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	R元実績	R2実績	R3到達目標	4年後(R5)目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4到達目標	R4年度計画
									R3到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析		
商工業	21 道の駅を拠点とした「ごちそう佐川」プロジェクト (佐川町) 【実施主体】 ◎・佐川町 ◎・(一財)しあわせづくり佐川 ※地域産業クラスター関連 (佐川町における自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化)	年間売上高 -	-	-	-	2.5億円	1 道の駅施設の整備、体制強化 ・施設の設計のための住民ワークショップの開催 ・基本設計書及び実施設計書の策定 ・道の駅整備に向けた財源の確保 ・第一期工事(浄化槽工事)の実施 ・運営母体の組織づくり 2 佐川町の特産品等の充実強化 ・地域資源を活用した商品の開発	1 道の駅施設の整備、体制強化 ・施設の設計のための住民ワークショップの開催(1回) ※R2～R3累計4回 ・基本設計書(R3.6月)及び実施設計書(R4.3月)の策定 ・道の駅整備に向けた財源の確保 農山漁村振興交付金(R3～R4):交付申請(12/13) 県産振補助金(R4):審査会(2/24) ・第一期工事の実施(12月～3月) ・運営組織「(一財)しあわせづくり佐川」の設立(7月) 2 佐川町の特産品等の充実強化 ・地域資源を活用した商品の開発(9品)	-	-	(成果) ・住民ワークショップでの意見を踏まえ、道の駅基本設計書や実施設計書が策定され、住民の想いを形にする道の駅の整備が着実に進められている。 ・第一期工事の完了により第二期工事(本体工事)の円滑な実施につながっている。 ・運営組織の設立により道の駅の運営面での具体的な検討が進むとともに、職員雇用(4人)にもつながっている。 ・地域資源を活用した商品開発により、佐川町の特産品のPRにつながっている。 (課題) ・R5春オープンに向けた施設整備、運営体制等の構築 ・地域資源を活用した商品・メニューの開発・磨き上げ (今後の方向性) ・施設(本体工事及び各機能)の円滑な実施 ・安定した運営体制の仕組みづくり ・地域資源を活用した商品開発の継続実施	-	1 道の駅施設の整備、体制強化 ・道の駅第二期(本体)工事の実施 ・道の駅の機能や運営体制についての詳細な検討 2 佐川町の特産品等の充実強化 ・地域資源を活用した商品・メニューの開発・磨き上げ
		レジ通過者数 -	-	-	-	25万人							
商工業	22 「村の駅ひだか」での農産物等の販売による地域商業の振興と地域の活性化 (日高村) 【実施主体】 ◎・(株)村の駅ひだか ・日高村 ※地域産業クラスター関連(日高村トマト産地拡大クラスタープロジェクト)	直販市の販売額 2.11億円 (R元見込み)	2.12億円	2.14億円	2.13億円	2.15億円	1 直販市の機能強化 ・村の駅ひだか出荷部会の定期的な開催 ・視察研修の実施 ・新たな特産品の開発 ・他地域の特産品の販売拡充 ・店頭販売の実施	1 直販市の機能強化 ・H26.11月オープン以降の来客者数(レジ通過)が140万人突破(R4.2月) ・村の駅ひだか出荷部会の開催:4回 ・村の駅ひだか取締役会の開催:1回 ・店頭販売の実施(村内事業者等):89回(R4.3.24時点) ・視察はコロナ拡大に伴い実施せず ・村内事業者が開発した加工品を新たな特産品として販売 ・他地域の特産品も含めた販売商品の拡充 ・農産物売場の陳列台を新調 ・竜とそばすの姫パネル展示 ・キッチンカーイベント ・新米まつり	2.02億円	B	(成果) ・コロナ感染拡大の影響により売上が落ちる時期はあるものの、県内客を中心に集客できており、コロナ禍前と同程度の売上を維持している。 (課題) ・商品の出荷体制の確立 ・特産品生産者の高齢化に伴う後継者づくり ・他地域の特産品も含めた販売商品の拡充 (今後の方向性) ・他地域の直販所との連携検討(野菜や果物が十分揃わない時期に、充足している他地域の直販所から商品を送ってもらう等)。 ・R4.4月には第二駐車場の拡張工事が完了する見込みであり、イベント開催時や繁忙期の週末における駐車場不足が緩和される見込みである。また、大型バスによる観光客の来訪も期待される。	2.14億円	1 直販市の機能強化 ・村の駅ひだか出荷部会の定期的な開催 ・視察研修の実施 ・新たな特産品の開発 ・他地域の特産品の販売拡充 ・他地域の直販所との連携検討 ・店頭販売の実施
		レジ通過人数 19万1千人 (R元見込み)	19万2千人	18万1千人	19万2千人	19万4千人			17万4千人	B	・R3目標達成率:95% ・対前年比:94% ・R3目標達成率:91% ・対前年比:96%	193千人	

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】		
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	R元実績	R2実績	R3到達目標	4年後(R5)目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4到達目標	R4年度計画
									R3到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析		
観光	24 土佐市における体験型観光と食観光の推進（土佐市） 《事業主体》 ◎・(一社)土佐市観光協会 ・土佐市 ・宇佐ホエールウォッチング協会 ・土佐市ドラゴンガイドチーム	体験型・食観光における入込客数 2,143人 (H30)	3,382人	1,555人	4,300人	5,000人	1 地域資源を活用した旅行商品化 ・既存体験メニューの受入とガイド育成 ・仁淀ブルー体験博のプログラムの造成（5月～7月） ・狩猟体験のモニターツアー実施（7月） ・仁淀ブルー体験博へのプログラム参加（10月～11月）	1 地域資源を活用した旅行商品化 ・ガイド件数：7件31人受入 ・狩猟体験のモニターツアー実施：10人受入 ・仁淀ブルー体験博へのプログラム参加：6メニュー 42人受入	・R3実績：1,279人 ・R3目標達成率： 30% ・対前年比：82.2% ※新型コロナウイルス感染症の影響による入込客数の大幅減少あり	D	(成果) ・仁淀ブルー体験博への参加をきっかけに地域資源を生かした体験プログラムの造成、ブラッシュアップが進んだ。 (課題) ・コロナ禍における安心安全な受入の継続と誘客の促進 ・新たなガイドの募集・育成 (今後の方向性) ・コロナ禍でツアー等の団体客の誘客が困難なため、ユニバーサルツーリズムなど新たな旅行者ニーズに応える商品開発にも取り組んでいく。	4,600人	1 地域資源を活用した旅行商品化 ・既存体験メニューの受入とガイド育成 ・ユニバーサルツーリズムの考え方を取り入れた商品開発 ・仁淀ブルー体験博へのプログラム参加（9月～11月）
	27 いの町の地域資源を活かした体験型観光等の推進（いの町） 【実施主体】 ◎・いの町 ◎・(一社)いの町観光協会	体験参加人数 27,541人 (H30)	28,428人	14,489人	29,000人	30,100人	1 体験メニューの販売促進 ・グリーンパークほどの活用 ・いの町を楽しむ体験観光メニューづくり ・「竜とそばかすの姫」に関連する観光素材の有効活用 2 イベント等の開催 ・仁淀川・商店街でのイベント開催 ・仁淀ブルー体験博への参加 3 地域産品の販売促進 ・観光協会による特産品オンラインショップの運営 ・日曜市出店（れんけいこうちブース） ・イベントへの町内事業者出店奨励	1 体験メニューの販売促進 ○グリーンパークほどの ・「キジの卵を使ったバームクーヘン作り」開始 →体験者数：121名 ・ホームページリニューアル（7月） ○紙の博物館 ・映画「竜とそばかすの姫」公開記念・限定和紙ファイル作り →体験者数：310名（2月末時点） 2 イベント等の開催 ・いの町まちのこいのぼりスタンプラリー（4/29～5/5） →景品交換数 86個 ・「高知蔦屋書店で鯉が泳ぐ」（いの町フェア）開催（5/3～5/5） ・銀橋マルシェ開催（8/1） ・Kami祭開催（11/23） ○仁淀ブルー体験博 ・親子で体験！仁淀川のアユをモチーフにした和紙ハガキづくり（2回）→参加者数：34人 ・ローカルガイドと旅する里山サイクリングツアー（2回） →参加者数：7人 ・滝しぶき、紅葉、ホットサンド。山の案内人で行く「程野の滝」デイキャンプ（2回）→参加者数：17人 3 地域産品の販売促進 ・観光協会による特産品オンラインショップ 送料無料キャンペーン（2回）、あかうしキャンペーン ・日曜市出店（3回）	体験参加人数 18,542人（R3年度） ・R3目標達成率： 64% ・対前年同期比： 127%	D	(成果) ・映画「竜とそばかすの姫」に関連した体験メニューの開発 ・コロナ後を見据えた体験メニューの開発 (課題) ・コロナ禍の外出自粛による観光客、売上げの減少 ・アフターコロナに向けた観光客誘客のためのプロモーション強化 ・グリーンパークほどの指定管理（募集中）	30,000人	1 体験メニューの販売促進 ・町内観光施設との連携 ・いの町を楽しむ体験観光メニューづくり ・体験メニューの広報・発信強化 ・「竜とそばかすの姫」に関連する観光素材の有効活用 2 イベント等の開催 ・仁淀川・商店街でのイベント開催 ・仁淀ブルー体験博への参加 3 地域産品の販売促進 ・観光協会による特産品オンラインショップの運営 ・日曜市出店（れんけいこうちブース） ・イベントへの町内事業者出店奨励
		体験メニュー売上高 5,175万円 (H30)	5,669万円	3,207万円	5,815万円	5,931万円		体験メニュー売上高 3,835万円（R3年度） ・R3目標達成率： 66% ・対前年同期比： 119%	D	(今後の方向性) ・コロナ禍に対応した体験メニューの検討	5,873万円		
主要観光施設入込客数 374,801人 (H30)	379,742人	296,598人	407,300人	415,800人			主要観光施設入込客数 360,649人（R3年度） ・R3目標達成率： 89% ・対前年同期比： 121%	B		411,500人			

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】		
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	R元実績	R2実績	R3到達目標	4年後(R5)目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4到達目標	R4年度計画
									R3到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析		
観光	28 いの町本川地区での山岳観光の推進 (いの町) 【実施主体】 ◎・いの町 ◎・(一社)いの町観光協会	道の駅木の香温泉・山荘しらす・木の根ふれあいの森の利用者数 52,705人 (H30)	50,934人	38,494人	60,000人	61,500人	1 観光施設と連携した体験型観光の推進と施設の整備 ・山荘しらすの整備 ・山荘しらすの整備 2 新たな体験資源を活用した体験メニューの検討と商品化 ■観光資源の掘り起こしと体験メニューの商品化 ■山の案内人の養成・ガイドの実践 ■インターネット・SNSを活用したPR・情報発信	1 観光施設と連携した体験型観光の推進と施設の整備 ・山荘しらすリニューアルオープン (4/29) ・寒風山・瓶ヶ森・よさこい峠公衆トイレを洋式化 (1月) 2 新たな体験資源を活用した体験メニューの検討と商品化 ■観光資源の掘り起こしと体験メニューの商品化 ・UFOラインワーク (4月、12月) 21本 524人 ・紅葉のUFOラインツアー (10月～11月) 5団体 102人 ・仁淀ブルー体験博 (11月) 12人 ・UFOライン貸切ドライブツアー (12月) 36人 ・木の香、木の根に萌す。パッケージ商品発売 (9月～) 11組 26人 ・森林軌道ツアー (11月) 7人 ・雪上車ツアー (12月～2月) 178人 ■山の案内人の養成・ガイドの実践 ・定例会の開催 4回 ・ガイド旅行ツアー 28本、ガイドのべ31人 ■インターネット・SNSを活用したPR・情報発信 ・いの町Instagram・いの町観光協会FBでの情報発信 69件 (本川地区分) ・(株)ソラヤマいしづちWebサイトを使った情報発信12件	52,345人 ・R3目標達成率：87% ・対前年同期比：136% ※山荘しらすのリニューアルオープンにより利用者が増加	B	(成果) ・山荘しらすリニューアルオープン ・冬山、森林軌道等の観光資源を活用した体験メニューの開発 (課題) ・観光施設の魅力向上 ・山岳観光地としての知名度の低さ ・体験事業における緊急時安全管理体制の構築 (今後の方向性) ・観光客を惹き付ける施設の魅力づくり ・山岳観光地としてのイメージを確立させるための情報発信の強化 ・地域資源を生かしたより魅力のある観光商品の造成・販売 ・山の案内人組織『BLU Montino』のPR	60,700人	1 観光施設と連携した体験型観光の推進と施設の整備 ・しらす野営場再整備事業プロジェクトチームの設置 ・山荘しらす内に『山の案内所』開設 2 新たな体験資源を活用した体験メニューの検討と商品化 ・『山の案内所』を活用した情報発信 ・ホームページやSNS、メディア等による情報発信 ・森林軌道、冬山、E-bike等の新たな観光素材の活用 ・(株)ソラヤマいしづち、(一社)仁淀ブルー観光協議会と連携した旅行社等へのセールス ・仁淀ブルー体験博等を通じた『BLU Montino』の周知と利用拡大 ・緊急時対応マニュアルの策定
観光	29 仁淀川町での観光情報の発信強化と受入体制の充実 (仁淀川町) 【実施主体】 ◎・仁淀川町観光協会 ・仁淀川町 ・仁淀川町内の地域づくり団体	主要観光施設等入込数 76,000人 (H30)	85,098人	56,149人	76,600人	77,000人	1 関係機関等と連携した効果的な観光情報収集・発信 ・安居渓谷、中津渓谷における案内看板の整備 ・役場、地域づくり団体等と連携した情報共有、仁淀川町観光協会を主体とした報告会の定期開催 ・観光協会による観光案内所機能の強化 2 施設整備や接客スキル向上等によるおもてなし観光の推進 ・仁淀川町観光ガイド養成講座の開催	1 関係機関等と連携した効果的な観光情報収集・発信 ・中津渓谷における臨時駐車場の設置 (5月～) ・仁淀川町観光報告会の開催 (4～5、8、10～1、3月) ※コロナウイルスの影響による中止あり ・交通警備員と観光協会が情報共有し、駐車場の空き情報をSNS発信するなどの混雑緩和 ・「仁淀川町おでかけマップ」の配布 (10月) ・「お花見マップ」の配布 (2月) 2 施設整備や接客スキル向上等によるおもてなし観光の推進 ・仁淀川町観光ガイド養成講座の開催 →DVD及び資料配付 (6月)、現役ガイドによる渓谷の個別ガイド指導 (7月～) ・「竜とそばかすの姫」タイアップ企画を実施 (7月～10月) →うえに併せて安居渓谷内に出張案内所を開設 (7月～8月) ・地域の観光資源の調査、視察 (2月)	65,377人 ・R3目標達成率：85% ・対前年比：116%	B	(成果) ・臨時駐車場の設置及びSNSを活用した空き状況の情報発信により観光客の利便性向上につながっている。 ・養成講座の実施を通じた新規ガイドの獲得及び既存ガイドの質の向上により観光客の満足度の向上につながっている。 ・映画「竜とそばかすの姫」とのタイアップ企画により町内の周遊促進及び消費拡大 (キャンペーン利用実績者数：262名) につながっている。 (課題) ・町内観光施設への周遊促進 ・観光ガイドの人員と体制の強化 (今後の方向性) ・観光情報収集・発信の継続 ・滞在型観光の推進	76,800人	1 関係機関等と連携した効果的な観光情報収集・発信 ・安居渓谷、中津渓谷、ひょうたん桜の観光スポットへライブカメラの設置 ・役場、地域づくり団体等と連携した情報共有、仁淀川町観光協会を主体とした報告会の定期開催 ・観光協会による観光案内所機能の強化 2 施設整備や接客スキル向上等によるおもてなし観光の推進 ・滞在型観光に向けた検討会の定期開催 ・仁淀川町観光ガイド養成講座の開催

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】		
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	R元実績	R2実績	R3到達目標	4年後(R5)目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4到達目標	R4年度計画
									R3到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析		
観光	30 佐川町での歴史と 文教を生かしたまちづくりによる観光の推進 (佐川町) 【実施主体】 ◎・佐川町 ◎・(一社) さかわ観光協会 ◎・佐川町内の地域づくり団体・個人	上町地区への入込客数 31,225人(H30)	30,091人	15,954人	33,000人	40,000人	1 観光資源の利活用、おもてなしの体制づくり ・JR客車収容施設オープン ・牧野富太郎博士生誕祭の開催 ・観光ガイド研修会の実施 ・観光ガイドのための英語自主研修の実施 ・さかわ・酒蔵ロード劇場の開催 2 体験型観光の推進 ・「わんさかわっしょい体験博」の開催 ・体験プログラム造成に向けた産振アドバイザー制度の活用	1 観光資源の利活用、おもてなしの体制づくり ・JR客車収容施設オープン (4/17落成式) ・牧野富太郎博士生誕祭2021の実施 (4/24～25) ・観光ガイド研修会の実施 (7/11、8/1) ・観光ガイドのための英語自主研修の実施 (週1回) ・さかわ・酒蔵ロード劇場の開催 WEB動画配信 (12/10～) ※コロナのためWEB開催 動画上映会、夜カフェ (12/11) 2 体験型観光の推進 ・「わんさかわっしょい体験博」の開催 説明会 (5/13) ワークショップ (5/27) オープニングセレモニー (8/7) 体験型博覧会 (9/4～10/10) : 参加者143人 ・体験プログラム造成に向けた産振アドバイザー制度の活用 (6/1、6/15)	18,180人 ・R3目標達成率: 55% ・対前年比: 114%	D	(成果) ・JR客車収容施設の整備や牧野富太郎博士生誕祭の開催など観光資源を活用した取組により、佐川町の認知度の向上につながっている。 ・わんさかわっしょい体験博では、コロナの影響で実施できなかった体験プログラムもあり、昨年度より参加者が減少(187人→143人)したものの、リピート率は上昇(29%→36%)しており、リピーターの獲得、交流人口の増大につながっている。 (課題) ・観光資源の利活用、おもてなしの体制づくり ・体験型観光の推進	35,000人	1 観光資源の利活用、おもてなしの体制づくり ・牧野生誕160周年記念事業の実施 ・NHK連続テレビ小説「らんまん」による観光客増加を見据えた、町内関係者によるプロジェクトチームでの受入体制の検討 2 体験型観光の推進 ・「わんさかわっしょい体験博」の開催
		上町まち歩きガイド利用者数 4,512人(H30)	4,816人	695人	5,300人	5,500人			1,909人 ・R3目標達成率: 36% ・対前年比: 275% ※昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に落ち込んでいたため	D	(今後の方向性) ・歴史資源の活用等により賑わいが生まれる取組の推進 ・R5放送予定のNHK連続テレビ小説「らんまん」に向けた観光客受入体制の整備 ・地域資源の掘り起こし、磨き上げによる体験型観光の推進	5,400人	
	青山文庫の入館者数 5,559人 (R元見込)	4,974人	3,106人	6,000人	6,000人	1 新たな青山文庫の施設整備 ・青山文庫の整備方針の検討 ・青山文庫企画展の開催	1 新たな青山文庫の施設整備 ・青山文庫の整備方針の検討 ・青山文庫企画展の開催 青山文庫の収蔵品あれこれ～絵画の世界～ (3/13～6/13) 志士たちの遺墨 (6/19～9/5) 家老家からみた廃藩置県、新国家の成立と田中光顕 (9/11～12/12) 志士たちの遺墨 (12/18～3/6)	4,045人 ・R3目標達成率: 67% ・対前年比: 130% ※昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に落ち込んでいたため	D	(成果) ・青山文庫に収蔵されている様々な歴史的価値のある資料を公開する(企画展の開催)ことにより、佐川町の歴史や偉人についての認知度の向上につながっている。 (課題) ・青山文庫の整備方針が未確定 (今後の方向性) ・青山文庫の整備方針(建設場所、改修内容等)についての検討	-	-	

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】		
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	R元実績	R2実績	R3到達目標	4年後(R5)目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4到達目標	R4年度計画
									R3到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析		
観光	31 越知町の総合的な観光振興と地場産品の販売促進 (越知町) 【実施主体】 ◎・越知町観光協会 ◎・おち駅物販経営協議会 ◎・越知町 ・JA高知県(仁淀川地区)など	おち駅での販売額 1.0億円 (H30)	1.2億円	1.3億円	1.1億円	1.1億円	1 観光物産館おち駅の利用者拡大 ・おち駅物販経営協議会の開催(月1回) ・スタッフによる利用者ニーズの把握 ・ふるさと納税を通じた情報発信 ・物販エリアのリニューアルに向けた検討	1 観光物産館おち駅の利用者拡大 ・おち駅物販経営協議会の開催(月1回) ・スタッフによる利用者ニーズの把握 ・ふるさと納税を通じた情報発信 ・物販エリアの一部リニューアル(6月) ・レジ通過者数通算100万人達成による記念品贈呈(9/1) ・秋の収穫祭(新高梨)の開催(10/13~10/15) ・年末感謝祭の開催(12/29.30) ・大抽選会の開催(2/6)	1.06億円 ・R3目標達成率:96% ・対前年比:80% ※ふるさと納税に関連する販売額が減少したため	B	(成果) ・物販エリアの一部リニューアル(駄菓子や和菓子販売)により売上の向上につながっている。 ・オープン12年目でレジ通過者数100万人を達成しており、利用の定着につながっている。 (課題) ・店頭販売額の減少傾向(町民利用者減少傾向) (今後の方向性) ・取扱商品の充実に向けた働きかけの継続 ・ふるさと納税を通じた情報発信の継続	1.1億円	1 観光物産館おち駅の利用者拡大 ・おち駅物販経営協議会の開催(月1回) ・ふるさと納税を通じた情報発信 ・秋の収穫祭(新高梨)の開催(10月) ・感謝祭の開催(年末) ・文旦まつりの開催(2月)
	横倉山自然の森博物館入館者数 6,507人 (H30)	8,564人	6,187人	9,100人	9,700人	1 横倉山のさらなる魅力向上 ・小中学校を中心とした広報活動の実施 ・博物館友の会会員増加とリピーター獲得に向けた観察会等の実施 ・企画展の実施(年4回) ・ガイド勉強会の実施 ・博物館と連携のもと横倉山トレッキングツアーを磨き上げ ・博物館外壁工事 ・博物館ホームページの開設 ・アウトドア写真展の開催	1 横倉山のさらなる魅力向上 ・横倉山自然の森博物館にて企画展の実施(4回) ・博物館による自然観察会等の実施(10回) ・博物館外壁等改修工事(7/1~9/30:期間中は休館) ・博物館案内看板の修繕(2カ所) ・博物館の展示を見ながら学べるワークシートの作成 ・アウトドア写真展の実施(11月)	6,101人 ・R3目標達成率:67% ・対前年比:99%	D	(成果) ・施設の外壁改修及び案内看板の改修により観光客等の受入体制の充実につながっている。 (課題) ・横倉山ブランドのさらなる確立、磨き上げ (今後の方向性) ・4月に開設するHPへの動画等の掲載を通じてPR ・NHK連続テレビ小説を契機とした観光資源の磨き上げ	9,400人	1 横倉山のさらなる魅力向上 ・OTAを活用した横倉山トレッキングツアーの販売 ・博物館友の会会員増加とリピーター獲得に向けた観察会等の実施 ・企画展の実施(年4回) ・さらなる誘客に向け、設備投資を検討 ・博物館ホームページの開設 ・博物館へ地域おこし協力隊(学芸員)の着任(4月) ・博物館HP等を活用した情報発信 ・高知大学学芸員実習生の受け入れ(夏休み) ・さんしんGO!による発信(9/4)	
	カヌー・ラフティング利用者数 1,694人 (H30)	1,915人	1,429人	2,200人	2,400人	1 カヌー、ラフティングの利用者拡大 ・SNS等を活用した情報発信 ・企業研修等での活用に向けた営業 ・繁忙期における外注ガイドの確保	1 カヌー、ラフティングの利用者拡大 ・SNS等を活用した情報発信 ・企業研修等での活用に向けた営業 ・繁忙期における外注ガイドの確保に向けた営業	1,096人 ・R3目標達成率:50% ・対前年比:77% ※夏の長雨や新型コロナの影響により減少したため	D	(成果) ・スノーピークの事業展開により、利用者の掘り起こしや拡大につながっている (課題) ・閑散期の稼働率の向上 ・繁忙期における外注ガイドの確保 (今後の方向性) ・企業研修等での利用提案 ・スタッフの人脈を活かした外注ガイド確保に向けた営業の継続	2,300人	1 カヌー、ラフティングの利用者拡大 ・OTAを活用した商品販売(冬期以外) ・SNS等を活用した情報発信 ・企業研修等での活用に向けた営業 ・外注ガイドの確保に向けた営業	

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】		
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	R元実績	R2実績	R3到達目標	4年後(R5)目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4到達目標	R4年度計画
									R3到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析		
観光	32 越知町における体験型観光の拠点となるキャンプ場を核とした交流人口の拡大と地域の活性化 (越知町) 【実施主体】 ◎・越知町 ・(株)スノーピーク	キャンプ場利用者数 9,526人 (H30)	11,113人	8,295人	10,940人	10,980人	1 キャンプ場の運営と誘客促進 ・センサー設置による来訪者数の把握 ・状況に応じた店舗スタッフの確保 ・ワーケーション等幅広い活用への訴求 ・越知町・スノーピークの定例会を実施(月1回) ・キャンプフィールドのシャワー室天井を修繕(4月) ・キャンプフィールドへ集草機を整備(4月) ・キャンプフィールドにて町民限定のアウトドアイベントの実施(5/9) ・両施設の住箱塗り替え(6月) ・公衆Wi-Fiの整備(6月) ・かわの駅砂利スペースのバリアフリー化	1 キャンプ場の運営と誘客促進 ・センサー設置による来訪者数の把握 ・状況に応じた店舗スタッフの募集 ・ワーケーション等幅広い活用への訴求 ・越知町・スノーピークの定例会の実施(月1回) ・キャンプフィールドのシャワー室天井の修繕(4月) ・かわの駅砂利スペースのバリアフリー化(4月) ・キャンプフィールドにて町民限定のアウトドアイベントの実施(5/9) ・両施設の住箱塗り替え(6月) ・公衆Wi-Fiの整備(6月) ・自動車販売店による展示会の開催(7/17.18.11/27.28) ・企業研修等での受け入れ(7回)	8,530人	C ・R3目標達成率：78% ・対前年比：103%	(成果) ・企業研修等という新たな利用形態により平日等の稼働率の向上につながった ・住箱の塗り替えや公衆Wi-Fiの整備により利用者の満足度の向上につながった (課題) ・閑散期や平日の稼働率アップ (今後の方向性) ・企業研修等での利用訴求	10,960人	1 キャンプ場の運営と誘客促進 ・自社サイトだけでなく、OTAを活用した宿泊商品の販売を開始(4月) ・企業研修等での利用を訴求 ・越知町・スノーピークの定例会を実施(月1回) ・キャンプフィールドの住箱への階段を修繕 ・キャンプフィールドの住箱前ウッドデッキを住民等の協働により塗り替え
		宮の前公園センターハウス レジ通過者数 23,000人 (R元見込)	18,573人	17,883人	30,800人	34,000人	1 地域情報の発信と経済効果の創出 ・PR動画作成について、必要性及び内容を検討 ・中心市街地への誘客等経済効果の拡大に向けた仕組みの検討及び実施 ・かわの駅にてテイクアウトマーケットの開催(月1回程度) ・防災をテーマにしたキャンパイベントを実施 ・アウトドアイベントの実施	1 地域情報の発信と経済効果の創出 ・SNS等を活用した観光情報の発信 ・中心市街地への誘客等経済効果の拡大に向けた仕組みの検討 ・スノーピーク公式イベントの開催 ・かわの駅にてテイクアウトマーケットの開催(3回) ・佐川高校生による町産野菜の販売会の実施(12/19) ・地域おこし協力隊によるイベントの実施(12/25)	20,469人	D ・R3目標達成率：66% ・対前年比：114%	(成果) ・販売会の実施を通じて町産野菜の認知度向上や高校生の学びにつながった (課題) ・施設認知度の向上 ・リピート客の獲得、購買率アップ ・町内への経済波及拡大 (今後の方向性) ・SNS等を活用した効果的な広報展開(情報発信) ・周辺地域の事業者と連携し状況に応じたイベント等の実施	32,400人	1 地域情報の発信と経済効果の創出 ・広報おちやSNS等を活用した情報発信 ・スタッフ等による宮の前公園清掃活動の実施(年4回) ・2 拠点合同周年祭の開催(4/9.10) ・スノーピークウェイの開催(4/16.17) ・かわの駅にてテイクアウトマーケットの開催(年5回) ・スターターキャンプの開催(5/21.22) ・グランピングイベントの開催(5/28.29) ・雪峰祭の開催(春・秋) ・アウトドアイベントの実施(11/12.13)
観光	34 「屋形船仁淀川」を核とした交流人口の拡大と地域の活性化 (日高村) 【実施主体】 ◎・(株)屋形船仁淀川 ◎・(一社)能津未来 ・日高村	屋形船乗船者数 6,076人 (H30)	7,393人	2,710人	7,750人	8,000人	1 観光客の受入態勢の充実 ・村内事業者と連携した観光商品の販売 ・雨天時の代替メニューの作成等の検討 ・ガイド研修会への参加 ・能津集落活動センターミライエと連携した取り組みの検討、実施 2 国内外に向けた情報発信 ・OTAを活用した商品販売 ・日高村観光協会や(一社)仁淀ブルー観光協議会、(一社)能津未来と連携した情報発信 3 (一社)能津未来による集落活動センターの運営 ・(一社)能津未来による全体会や役員会等の実施 ・錦山公園のキャンプ場としての活用に向けた芝生等の整備及び活用に向けた検討 ・地域情報の発信 ・空き家情報の集約	1 観光客の受入態勢の充実 ・OTA経由での予約件数：100件 ・ロケットカード配布枚数：1,136枚 ・映画「竜とそばかすの姫」とのタイアップ企画の実施 ・能津集落活動センターで作った弁当を屋形船利用客に提供 2 国内外に向けた情報発信 ・Instagramでの情報発信を開始 3 (一社)能津未来による集落活動センターの運営 ・体験参加人数：310人 (R4.3月末) ・来客者数(レジ通過)：4,408人 (R4.3月末) ・産業振興アドバイザー制度(課題解決型)を活用し、(一社)能津未来の経営支援に関する協議を実施：5回 ・地域イベントの開催(12/26) ・錦山公園の芝生の整備 ・Instagramを用いた地域情報の発信 ・アンケートを用いた空き家情報の集約	2,960人	D ・R3目標達成率：38% ・対前年比：109%	(成果) ・体験プログラムにおける安全管理マニュアル策定事業者として、県制度のゴールド認定を取得 ・産業振興アドバイザー事業を活用し、専門家の指導のもと経費の見直し等を行い、(一社)能津未来の経営改善が図られた。 (課題) ・コロナ禍における観光客の誘客 ・国内外に向けた情報発信 ・集落活動センター事業への地域住民の参画 (今後の方向性) ・ホームページやSNS (Instagram等)を活用した情報発信の充実 ・法人社員の呼びかけによる地域住民の事業参画 ・地域住民へアンケート調査を実施し、今後のセンターの活動内容や運営の見直しに活用	7,875人	1 観光客の受入態勢の充実 ・村内事業者と連携した観光商品の販売 ・雨天時の代替メニューの作成等の検討 ・ガイド研修会への参加 ・能津集落活動センターミライエと連携した取り組みの検討、実施 2 国内外に向けた情報発信 ・OTAを活用した商品販売 ・日高村観光協会や(一社)仁淀ブルー観光協議会、(一社)能津未来と連携した情報発信 3 (一社)能津未来による集落活動センターの運営 ・(一社)能津未来による全体会や役員会等の実施 ・地域住民参画による飲食事業や観光事業等の展開 ・地域情報の発信 ・空き家情報の集約

地域産業クラスタープロジェクトの推進

地域に根差した産業を核として、その周りに様々な産業を集積させる「地域産業クラスター」の形成に取り組むことにより、第一次産業から第三次産業までの多様な仕事を創出し、若者が地域で働き続けられる土壌づくりを目指していきます。クラスター形成を目指す「クラスタープロジェクト」として、18のプロジェクトを位置づけ、その一つひとつに、県、市町村、関係団体等で構成する「プロジェクトチーム」を設置し、プランの策定からその実行までをサポートしていきます。

地域	分野	プロジェクトNo.・名称	取り組み概要(目指す姿)	取り組み状況	
仁淀川	農業	No.8 日高村トマト産地拡大クラスタープロジェクト	日高トマト生産団地の拡大の取り組みを核として、中山間複合経営拠点の整備とも併せ、関連するJA出荷場、農産品加工施設、直販所、地元レストラン等が連携し、クラスターの形成を図る。	これまでの取り組み (H28～R3)	トマト産地の確立のため、最新技術の研究及び導入、栽培技術の向上に向けた指導等、一貫した支援を行ってきた。また、トマトを活用した新たな加工品やオムライスメニューの開発に取り組むとともに、村の駅ひだかや、オムライス街道の参加店舗をはじめとする地元飲食店等による販売促進を行ってきた。 栽培マニュアルの改訂を行い、マニュアルをもとにした現地指導の徹底により栽培技術の向上が図られた。また、トマトを活用した加工品の製造販売や宿泊施設の運営等を行う法人の経営力強化に向けた支援を実施するとともに、オムライス街道店舗による新メニューの開発（4件）や、新たな加工品の販売（1件）が進んだ。
		関連する地域AP No.3 日高村まるごとブランド化 No.22 「村の駅ひだか」での農産物等の販売による地域商業の振興と地域の活性化	R4年度の計画		トマト生産力向上に向けた労働力の確保及び交流人口の拡大に向けた宿泊施設や「村の駅ひだか」の魅力向上
	農業	No.9 いの町生姜生産・販売拡大クラスタープロジェクト	いの町での生姜生産を核として、生姜の集出荷場整備を契機に、生姜生産農家、地元加工業者や直販所、道の駅、学校及び商工会等が連携し、生産から販売、人材育成までの好循環を生み出す。	これまでの取り組み (H28～R3)	栽培技術の向上を支援し、露地生姜栽培面積は、順調に推移している。また、生姜を活用した新たな加工品やメニューの開発に取り組むとともに、町の生姜をアピールし町内での消費促進を図るため「生姜焼き街道」の取り組みを行ってきた。栽培講習会、GAP点検支援等の実施や、新規研修生の受入、シードシャッターの設置によるGAP取り組み強化などを行った。また、芽生姜を使った加工品（しそ酢漬）の試作を行うとともに、高知市内でのイベント出店による生姜消費拡大に向けたPRを行った。
		関連する地域AP No.4 いの町生姜生産・販売拡大クラスタープロジェクト	R4年度の計画		小袋包装機等の導入による集出荷体制の整備及び生姜の町「いの」PRに向けた取組及び情報発信の強化
	林業	No.10 佐川町における自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化クラスタープロジェクト	自伐型林業の取り組みを中心に、担い手の育成確保を含めた自伐型林業のビジネスモデルづくりのほか、町産材等を使ったモノづくりの人材育成や拠点整備、道の駅等の整備により町内の6次産業化を進める。	これまでの取り組み (H28～R3)	自伐型林業の推進に向けて、地域おこし協力隊の積極採用や山林の集約化による施業地の確保に取り組んだ。また、ものづくりの拠点となる「さかわ発明ラボ」を開設するとともに、森林資源フル活用センター（仮称）や道の駅の整備に向けた検討を行った。その中で、森林資源フル活用センター（仮称）の整備計画については凍結に至っている。 地域おこし協力隊を採用した（自伐型林業4名、ものづくり関連3名）。また、低質材等の活用促進の観点から、低質材等の利活用の検討については、継続案件とするとともに、加工した製品の販売拠点でもある道の駅の整備に向け、基本設計を経て、実施設計の策定を進めている。
		関連する地域AP No.9 佐川町における自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化クラスタープロジェクト No.21 道の駅を拠点とした「ごちそう佐川」プロジェクト	R4年度の計画		施業地の安定的・継続的な確保や低質材等の利活用、またR5年春オープンを目指した「道の駅」整備に向けた円滑な取組み
		食品加工	No.11 仁淀川町における(株)フードプランを核としたカット野菜事業クラスタープロジェクト		カット野菜事業を展開する(株)フードプランを仁淀川町での基幹産業として位置付け、事業の継続的な実施と販売拡大によって雇用の確保や農業者の所得向上につなげる。
	関連する地域AP No.18 仁淀川町における(株)フードプランを核としたカット野菜事業クラスタープロジェクト		R4年度の計画	加工用ネギの生産者の掘り起こしや、高付加価値商品（ドレッシング）の開発・販売、コロナ禍における「きじ出汁野菜鍋」を活用した観光誘客に向けた取り組み	